

モデル事業名	「ばっちゃん力の共同食レストランと弁当サービス」の仕組みづくり」調査
活動団体名	特定非営利活動法人 資源循環型社会発信地域創造グループ（EGG） 特定非営利活動法人 生き粋あさむし 協同組合 プランニングネットワーク東北
ホームページ	http:// www.planet-thinks.or.jp/
所属／ 担当者名	協同組合 プランニングネットワーク東北 事務局長 三浦麻子 事務局 (資源循環型社会発信地域創造グループ（EGG） 柏谷富紀子 横浜事務局)
連絡先	TEL 017-723-7630 FAX 017-723-7631 MAIL asako@planet-thinks.or.jp (三浦)
活動地域	青森県 横浜町

● 活動地域の概要

＜横浜町の現況＞（平成21年6月現在 数字は平成20年）

- ・人口は5300人、2070世帯。前年に比べ人口は110人減少、世帯数は16世帯増加。
- ・集落の数は18。最も多い本町は1080世帯2500人、最も小雲雀平集落は5世帯10人。
- ・0～14歳人口は13.0%。人口増加率はマイナス7.5%。高齢化率28.4%。特に85歳以上の人口は平成9年から19年の間で2.2倍の増加。
- ・公共交通はJR大湊線横浜駅がある。
- ・町内に病院はなく、診療所が2ヶ所ある。1つは医師が高1つの医師は青森市からの通い。
- ・就業人口の構成比は、1次産業：2次産業：3次産業が3：4
- ・典型的な半農半漁の町。野菜は各家で自家生産が多い。



横浜町は下北半島のつけ根

● 活動地域の課題

むつ湾東岸（はまなす海岸）の横浜町は、やませの気象条件、平地の制約で半農半漁の集落群である。後継者流出が続く、高齢単身のばっちゃん比率が高い。家族・コミュニティが崩れ、孤食が広がっている。短命県青森のなかでも女性は最も短命に近い。保健所などの食事指導も孤食で効果が制約されている。

また、その生活は半困窮状態で、わずかな収入追加が浜のばっちゃんたちの切実な願いだが、可能性はコミュニティ複合的なスモールビジネスに限られる。

● 活動の内容

・平成20年度（継続団体は記入）

- 9月 関係機関に趣旨説明、協力依頼 第1回運営ばっちゃん会議
第2回会議 委員2～3人ずつチームに分かれて集落ごとに「昔食べていたもの調査」 第3回会議 チームごとに調査結果を発表（1回目）
農家レストラン「ふみえはらはん」（宮城県加美町）見学
11月 十和田市道の駅とわだびあ 農家女性達の料理「一皿会」見学。
第4回会議 「昔食べていたもの」発表（2回目）と試食。
浅めし食堂とNPO法人生き粋あさむしの見学・研修（浅虫温泉）
第5回会議 「昔食べていたもの」発表（3回目）と浅虫研修
12月 第1回横浜ばっちゃん料理試食会（関係機関招待）
1月 試食会反省 第2回試食会の打ち合せ
2月 第2回試食会 2チームに分かれて弁当試作
3月 関係機関への活動報告と材料提供協力依頼（JA、漁協、社協）
第2回試食会 浜のばっちゃん弁当（2種類）（関係機関招待）

平成21年度

- 7月 第0回会議 前年度の振り返り 今年度のアイディア出し
8月 第1回会議 今年度スケジュール説明
9月 第2回会議 伝統法事膳の再現試食（国土交通省現地視察）
産直レストラン「ビーンズ」（秋田県大仙市）視察と研修
10月 第3回会議 「ビーンズ」研修反省 学校行事との協働について



唯一のじっちゃん委員は調理師



弁当試食会で、石木先生の講評



法事膳の再現

- 1 1 月 <菜の花クリニック仮開業> お祝いの紅白餅を提供
第4回会議 クリニック開業記念
- 1 2 月 第5回会議 講演 上十三保健所健康増進課長 東山恵子さん
横浜町の正月料理試食会 (国土交通省 担当者現地視察)
- 1 月 第6回会議 漬け物コンテストの詳細打ち合せ 他
23 日 青森市新町商店街まちの駅で「クジラ汁」(限定 100 食) 提供
(商店街との共同企画) 26/27 日 町内高齢者の昼食会に伝統料理
を提供 事業化アンケート調査 (社協との共同企画)
- 2 月 「ばっちゃんの漬け物コンテスト」実施



大曲 産直レストラン「ビーンズ」

平成22年度

緊急雇用創出対策事業で、横浜町全域のゴミ清掃及び美しい景観形成事業を実施(雇用人数 5 人 期間 6 ヶ月) 海岸を含む町内全域のゴミ収集作業→回収ゴミの選別、洗浄作業→花壇整備など景観形成に携わる作業実施。

<事業内容>

海岸線では、漂着ゴミを真水で塩分除去し、分類、リサイクルをさせ、美しい浜を再現する。原・山では永年繰り返されている不法投棄物[家庭、産業含む]の除去に全力をあげる。良好な景観を形成、白砂青松の美しい横浜町原風景を取り戻し、観光振興及び人々の豊かな心の醸成に努め地域の活性化に結びける。



海岸レストランでの作業風景

● 活動の成果

・平成20年度

- ① 孤食状況のヒアリング、試食会、グループインタビューで、一人暮らし高齢者の引きこもり状態の改善、食事の指導効果の向上、生活習慣病改善のためには「共同食レストラン及び弁当サービス」が必要なこと、集落高齢者の事業への期待も高いことを確認した。
- ② また、60 歳代は伝統食づくりの経験が乏しく保全・継承が危機的状況にあることに気がついた。
- ③ 町も社協も財政難で人手もなく、ばっちゃん自身が担い手となる経営体設立の支援が必要なことも確認。行政や農漁協など関係機関の理解が進んだ。



漬け物コンテストチラシ

・平成21年度

- ① 産直レストラン「ビーンズ」など、事業としてなりたっている事例を見学することで、自分たちに可能な事業形態、規模などを展望することができた。
- ② 社協や町、民間の集まりなどから、弁当の依頼を受け、提供した。原価で提供し、そのかわり？アンケートに協力してもらった。
- ③ 活動を通じ、菜の花クリニックが横浜町に開業。ばっちゃん会議は、全面協力態勢で臨むこととし、仮オープンに紅白の餅を提供。その後は職員用弁当を提供。
- ④ 菜の花クリニック主催「漬け物コンテスト」事務局を担当、クリニックと町民のコミュニケーションスタートに協力。



ばっちゃんロゴマーク

・平成22年度

- ① 他の事業費を使って継続を試みている。海岸のレストハウスでは期間限定ながら、営業を続けている。
- ② 景観やその他の分野にも活動を広げ、わずかだが、ばっちゃんグループの雇用を確保できた。

● 今後の課題及び展望

・課題(活動を通して発見された課題等を記入)

- ① 核家族が増加して、子どもだけでなく親の世代でも行事食や伝統料理の味を知らない。伝統の味の継承が家庭ではできなくなっている。
- ② 高齢化の一層の進展により、社協の事業は多様化し、作業量の増加も著しい。
- ③ レストラン、弁当とも、食事提供のみで継続的に収益をあげることは困難である。

・展望(今後の取り組みや検討について記入)

- ① 子ども達の心に地域への誇りを醸成するためにも、学校との協働事業を実施したい。
- ② 町の高齢者の健康増進と、孤食回避、楽しい食事を提供するため、スモールビジネスの立ち上げを目指す。
- ③ 菜の花クリニックと協働で、残したい味コンテストを継続する。
- ④ できる範囲で活動範囲を広げる。県内他地域からのばっちゃん料理提供のオファーがあれば積極的に応じる。
- ⑤ 人的ネットワークはできたので、突発的、大量のケータリングにも対応できるので、PRしたい。